

## 上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（特別研究・一般研究）

研究代表者 所属・職名 特別支援教育コース・准教授

氏 名 藤井 和子

研究期間 平成28年度～平成29年度

研究プロジェクトの名称	小・中学校通常の学級に在籍する発達障害のある児童生徒のアクティブ・ラーニングを支える自立活動のカリキュラム開発に関する基礎的研究
研究プロジェクトの概要	<p>通常の学級で学ぶ学習障害等発達障害のある児童生徒は、障害による学習上又は生活上の困難があることにより、各教科等の学習において不安を抱いている。このような児童生徒が他者との共同による学習を深めていくには、自立活動の指導が重要になる。自立活動の指導を進めるためには、通級指導教室における自立活動の時間の指導と各教科等の指導が密接な関連を保つ必要がある。故に、通級担当教師と通常学級担任教師との連携が求められる。</p> <p>そこで、本研究では、自立活動の時間の指導と各教科等の指導をつなぐ個別の指導計画に着目し、個別の指導計画作成における通級担当教師と通常学級担任教師との協働の実態と課題を明らかにする。</p>
研究成果の概要	<p>○平成28年度：文部科学省調査官庄司美千代先生にお越しいただき、新学習指導要領における通級による指導に関わる改訂の内容について勉強会を実施した。さらに、通級指導教室における連携や個別の指導計画作成の実態と課題、及び個別の指導計画作成が通級児の学習や通級担当教師の専門性の意識に及ぼす影響について検討した。また、その成果を研究協力いただいた通級の先生方とともに、第54回日本特殊教育学会で発表した。</p> <p>○平成29年度：文部科学省調査官分藤賢之先生にお越しいただき、特に自立活動に関わる学習指導要領の改訂内容について勉強会を実施した。また、新任期通級担当教員の力量形成の実態について調査し、日本特殊教育学会第55回大会にて発表した。</p> <p>さらに、自立活動のカリキュラム開発を行うために求められる教師の専門性を明らかにするために、特別支援学校の退職校長に対し、面接調査を実施した。その成果は、平成30年度の日本特殊教育学会において発表する予定である。</p>
研究成果の発表状況	<p>日本特殊教育学会第54回大会自主シンポジウム「インクルーシブ教育システム構築における言語障害通級指導教室の役割（I）」</p> <p>日本特殊教育学会第55回大会ポスター発表「通級担当教員の新任期における力量形成の実態に関する研究」</p>
学校現場や授業への研究成果の還元について	<p>日本特殊教育学会第54回大会自主シンポジウムは、小学校通級指導教室の先生方と協働して実施した。研究をまとめていく過程そのものが、先生方においては研修となり、成果は実践に活用された。また、本研究プロジェクトは院生とともに実施しており、研究デザイン、方法、分析の検討等研究の進め方に関する院生の学修に還元できたと考えられる。</p>